


文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel (0776-82-1141) Fax (0776-82-2261)  
【斉藤新緑事務所】〒913-0001 福井県坂井市三国町池上103-36  
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp  
【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

# ほっとらん

人に、まちに、いま、  
元気の種をまこう。

## VOL. 85

千曲川旅情の歌

島崎藤村

小諸なる 古城のほとり  
雲白く 遊子悲しむ  
緑なす 繁縷は萌えず  
若草も 藉くによしなし  
しろがねの 衾の岡辺  
日に溶けて 淡雪流る  
あたたかき 光はあれど  
野に満つる 香も知らず  
浅くのみ 春は霞みて  
麦の色 わずかに青し  
旅人の 群はいくつか  
畠中の 道を急ぎぬ  
暮れ行けば 浅間も見えず  
歌哀し 佐久の草笛  
千曲川 いざよふ波の  
岸近き 宿にのぼりつ  
濁り酒 濁れる飲みて  
草枕 しばし慰む

旅人が小諸にある古城のあたりにたたずみ、白い雲を見上げていると、旅の愁いが一層つのり悲しみが増すのである。

春まだ浅く、はこべは芽生えておらず、若草も腰を下ろすには十分ではない。

しかし、白く輝く山々のすそ野では淡雪が溶けて流れている。

あたたかい春の光はあるけれども、野に満ちる香りはなく、春霞が浅くかかっているだけで、麦の色はわずかに青い。畠の中の道を宿場へと急いでいく旅人の群れが見える。

日が暮れ浅間山も見えなくなり、草笛の音が哀しく聞こえる。旅人は千曲川の漂う波の岸に近い宿に上がり、濁り酒を飲んで旅愁をしばらくの間慰めている。

## 日本語が「びる」とき

「軽薄で内容のない、その場限りの三文小説以外、若者は本を読まなくなりました。詩を読む人も少なくなりました。」

一人畳に座り、『千曲川旅情の歌』などを朗々と吟じられる若者がいるのでしょうか？ 老人だけしか本を読まない社会は先のない社会です。

まったく若者の国語能力は平均して私たち世代の百万分の一しかないような印象です。

そこで私も居直り、今回の本は自分に向かって書くことにしました。この異郷の地で、私はもう死を待つ以外することとてなにもありません。どうせ無駄な時間です。

老人の繰言を書きながら残り時間の切れるのを待とうと、そう考える以外に自分を鼓舞する動機を失いつつあるのです。

それにしても……、と私は考え込みます。

このように国語能力をほぼ完全に失った若者たちが、その後、その青春や人生に悔いを持たないものなのだろうか、と。

私に言わせれば、藤村の詩一つ暗誦できずに死ぬなんて、せっかく日本人として生

まれてきた幸運をドブに捨て、いくら臍を噛んでも噛みきれないほどの痛恨事を人生に残すことになるのですが、もう生まれたいときから豚の糞よりも汚らしい日本語を垂れ流しているテレビに毒され続けてきた世代は、はなから美しい日本語など知らぬが仏で終わるのかもしれない。

ひよつとしてあと五十年もすれば、後悔とか痛恨という日本語すら存在しなくなるのかもしれないのです。

しかし私は胸を張り高らかに自分に向かって言い残しておきたい心境です。

あの敗戦の当日から始まったような青春と人生に、私は悔いがない。その理由はただ一つ、日本がまだ日本だったからである、と。

私の青春は美しい日本語で包まれ、私の人生には国語が生きて残っていたからである、と。国語を堪能しながら一生を終えられることは、なににもまして幸せなことなのです。どれほど素晴らしい日本語の会話を交わすことができたこ



英語に吸収され、日本語が国語から現地語(日常生活用)となれば、植民地支配されたフィリピンのような国になる。

言葉と人間の関係に無頓着な愛国心など信じようもないが、「私たちが知っていた日本語とはこんなものではなかった」という人が、少数でも存在する今なら、まだどうにかなるのかも知れない。

(2002年、林秀彦著)

# 小学校からの英語教科化は必要ない

## ～福井県教育大綱(案)の修正を求める～

県は今後5年間の教育行政の指針となる教育大綱案をまとめました。  
教育大綱は、本年4月施行の改正地方行政法で、国が義務付けたもので、教育委員らの意見や9月定例会の議論も踏まえ、10月に策定し、その大綱に基づき、県教育委員会が今後5年間の具体的な施策を盛り込んだ新たな教育振興基本計画を年内に策定するというものです。

9月定例会に提案された福井県教育大綱(案)、黙って見れば、このまま議会が承認したと見なされるので、小学校からの英語教科化をはじめ、昨今の異常な日本社会の英語化の問題点を指摘し、国語としての日本語教育の充実を求め、9月定例会予算特別委員会(持ち時間一時間)を集中してその修正を求めました。

教育大綱案では、基本理念として、「ふるさと福井への誇りと愛着を培い、自ら学び考え行動する力を育む教育県・福井」を掲げ、「グローバルな社会で活躍するための「話せる」外国語教育の推進」など10の方針をあげており、「英語」は「話す」ことに課題があるとし、国が2020年度からとする小学5、6年の英語教科化を2年前倒しして先行実施するとしています。

しかし、そもそも学力低下が叫ばれる中で、日本語もまともに話せない子供に何ゆえ英語教育なのか、国語教育の充実こそ徹底すべきです。  
小学校から英語を勉強すれば、英語をペラペラ話せるようになる「など」というのは、まったく根拠がなく、英語教育の低年齢化による悪影響、英語化がもたらすものが何かという深い

「地方創生」という名で、中央集権政治に唯々諾々と従う姿は悲しい日本の地方自治の実態で、国が「作れ」というから作られる計画など作ることが目的で終ります。

「過労死ライン」の超過勤務を余儀なくされる教員の多忙化が指摘されている中で、あれもこれもやろうとして、学校現場に丸投げしても消化できずに混乱を招くだけで、何が「学力日本一」なのか、何を目的としたものか内実が問われます。

以下に、急ピッチで進む英語化の動きと、英語化がもたらす弊害、この国のゆくえについて考えます。  
■日本を近代化するには英語か、日本語か?

結果として、10月25日策定された教育大綱は国語教育の充実など追加修正されたものの、小学校からの英語教科化については、国が5年後の導入を決定していることもあり、児童の負担を軽減する立場から段階的に教科化を進めるという趣旨を説明文に追加するという程度にとどまりました。

### 明治の英語公用語化

たとえ明治初期の今、日本語で西洋の学問を講じるのが難しくとも、将来は日本語で教えられるようにならなければならない。

「これからの日本が世界に負けない国づくりをするには、英語を重視しなければならぬ。初等教育から学校では英語を教授(使用)言語とし、政府機関で用いられる言語も英語にすべきである。」  
これは、およそ一四〇年前の一八七〇年代に展開された今で言うところの「英語公用語化論」、急先鋒だったのは、のちに初代文部大臣もつとめた森有礼(もりあり)だった。

「英語公用語化論」の気運を盛り上げるため、欧米知識人に応援してもらおうと手紙を送ったりしたが、逆に反対された。  
①「母語を棄て、外国語による近代化を図った国で成功したものなど、ほとんどない。そもそも、英語を日本の「国語」として採用すれば、まず新しい言葉を覚え、それから学問をすることになってしままい、時間に余裕のない大多数の人々が、実質的に学問をすることが難しくなってしまう。」

その結果、英語学習に割く時間のふんだんにある少数の特権階級だけがすべての文化を独占することになり、一般大衆との間に大きな格差と断絶が生じてしまうだろう。  
たとえ完全に整った国民教育体系をもつとしても、多数の国民に新奇な言語を教え、彼らを相当高い知的レベルにまで引き上げるには大変長い時間を要するでしょう。  
もし大衆を啓蒙しようというのであれば、主として母国語を通じて行われなくてはなりません。

②「教育とは、前世代までの伝統の蓄積に立つて行われるべきものであり、まったく新しい基礎の上に成り立つものではない。」  
「教育政策を考えるうえで、変えてよいものと変えてはならないものがあるが、教育で用いる言語は最も変えてはならないものの一つである。」  
「ある国において普通の人々が用いている日常の「国語」を用いないのであれば、その国に教育が普及することなどあり得ない。」

①英語学習には大変な時間がかかり、若者の時間の浪費につながりかねない。  
英語は日本語と言語学的に大変異なった言葉である。  
それゆえ、日本人の英語学習は非常に骨が折れ、時間がかかる。なすべきこと、学ぶべきことの多い若者の時間が、無駄に費やされる恐れがある。  
②英語を公用語化すれば、国の重要問題を論じることができ、一握りの特権階級に限られてしまう。  
英語学習は困難かつ多大の時間を要するため、英語に習熟できるのは、国民のごく一部の有閑階級に限られる。日々の生活に追われる大多数の一般庶民が英語に習熟することは非常に稀だろう。  
したがって、国の諸制度が英語で運営されたり、政治や経済に関する知的な議論が英語でなされたりするように



なつてしまえば、国民の大多数は、天下国家の重要問題の議論からまったく切り離されてしまふ。

近代的な国づくりに国民のごく一部しか問われないことになる。これでは、国民すべてを力を結集し、欧米列強に伍していく国づくりを行うことなどできない。

③英語の公用語化が社会を分断し、格差を固定化するという問題だ。

国の重要問題から庶民を切り離すこととなるだけでなく、英語が話せるか否かが経済的格差につながり、豊かな国民と貧しい国民との間の断絶を生む可能性がある。果たして、それが近代日本の目指すべき国家の姿であろうか。

④問題点は英語を公用語化すれば、国民の一体感が失われてしまふ。

（福沢諭吉の弟子・馬場辰猪）

■学生の英語力低下は社会の進歩  
一八七〇〜一八八〇年代当時は、日本語で書かれた教科書が存在せず、日本初の大学である東京帝国大学や旧制高校での授業は、外国語で行われていた。

西洋の学問を修めた日本人もほとんどおらず、日本語で

教えられる教師がいない。教師の多くはお雇い外国人だった。

その結果、明治の初期の知識人、たとえば岡倉天心や内村鑑三、新島襄などは、ほとんどすべての学問を英語で学んでいた。

必然的と言うべきか、この世代の知識人は、英語が非常にうまかったので、この世代を「英語名人世代」と称している。

岡倉天心の『茶の本』や内村鑑三の『代表的日本人』など英語で書かれたものも、英米人が読んでも驚くような名文であることが多い。

やがて、近代的な「国語」としての日本語が徐々にでき上がってきた明治半ばになり、翻訳語が定着してくる頃になると、それまで日本の高等教育の場で教員の多数を占めていた、お雇い外国教師が日本人の教師に置き換えられ、明治後半になると、旧制高校や大学といった日本の高等教育機関では、さまざまな科目が外国語ではなく日本語で教授されるようになった。

学問の普及が進み、多くの若者が先進の外来の知識を、原語と格闘するという大きな労苦を経験することなく、日本語で



学べるようになったのである。しかしそれに伴って、先に述べた英語名人世代のような、英米人も驚くほどの語学力を備えた学生が少なくなってきたのです。

当時の新聞などには、「最近の大学生の外国語力の低下は嘆かわしい」といった、現代の日本でも聞かれるような意見がしばしば掲載され、外国語力をどのように向上させるべきかという議論が早くも起こっています。

しかし、これについて、文豪・夏目漱石は、学生の英語力低下は、「日本の教育が正当な順序で発達した結果」で、「当然の事」と断言し、英語で行っていた明治初期の高等教育は「一種の屈辱」だったと言っています。

■加速する英語偏重教育  
一つ間違えれば、国の独立の維持すら危うかった明治の日本は、英語による日本の近代化、英語の公用語化論を退け、日本語による近代化を選んだことで、危機の時代を乗り切った。

しかし、今また、このような時代に逆行するような英語偏重教育が加速している。

二〇一三年一月に発表された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」では、次

# 誰のための教育改革か

のような改革が提案されている。す。

①英語教育の早期化  
小学校五年生から英語を正式教科として教え、外国語活動を小学校三年生から開始する。

②オール・イングリッシュ  
オール・イングリッシュ方式とは、英語の授業中は英語のみを使用し、日本語を原則的に禁止するというものだ。

オール・イングリッシュ方式の授業は、高校ではすでに導入されていて、この授業方式の開始を中学校一年生にまで引き上げようというのだ。

③大学の授業の五割を英語で  
大学を核とした産業競争力強化プランとして「グローバル人材の育成」を挙げ、大学の授業の英語化を早急に進めることが提案さ

れ、授業の英語化の数値目標を、一流とされる大学は、今後、一〇年のうちに五割以上の授業を日本語ではなく、英語で行うようにすべきだとしている。

「スーパーグローバル大学創成支援」とは、認定した大学に

は、一校につき最大五〇億円（一〇年間）の補助金を与える、というプロジェクトです。

英語で行う授業数が多ければ、多くの補助金が配分されま

す。

一方で、日本語で勉強している、取り残され、一流でなく

す。

スーパーグローバル大学の補助金を限られた財源からひねり出すために、事実上し

わ寄せを受けるのが、

日本の「国際競争力」の増進に寄与しない

なつてしまふという強迫観念にかられているかのようです。

この英語化の経緯が実に本末転倒で、優秀な留学生を海外から集めるために、外国人留学生の日本語能力は問わず、留学生獲得のために日本人が英語で授業を受けることになったということです。

これは日本の知の最先端の場から日本語を撤退させ、その分を英語にするようなものです。

・人文社会系にしわ寄せ

日本で英語を学ぶのは外国語学習つまり、生活言語として英語が使われていない環境で、限られた時間と方法で接しながら、英語を学んでいくであり、英語の発音や文法をきちんと「学ぶ」必要があります。

そのなかでも、文法を学ぶには一定の知的発達が必要となり、その意味で、中学校入学時に英語の学習を開始するのが望ましいと言えます。

図表1 スーパーグローバル大学に認定された37大学

タイプA	トップ型 (年間4億2000万円~5億円の補助)
国立	北海道大、東北大、筑波大、東京大、東京医科歯科大、東京工業大、名古屋大、京都市大、大阪大、広島大、九州大
私立	慶應義塾大、早稲田大
タイプB	グローバル化牽引型 (年間1億7000万円~3億円の補助)
国立	千葉大、東京外国語大、東京芸術大、長岡技術科学大、金沢大、豊橋技術科学大、京都工芸繊維大、奈良先端科学技術大学院大、岡山大、熊本大
公立	会津大、国際教養大
私立	国際基督教大、芝浦工業大、上智大、東洋大、法政大、明治大、立教大、創価大、国際大、立命館大、関西学院大、立命館アジア太平洋大

人文社会系の学問をないがしろにするような決定は、現場教員を含め、広く国民各層の声を聞き、熟慮すべき重大問題であるが、「効率化された」現在の日本の政治状況では、こうした独断的決定が、すんなり通つてしまう可能性が高いのです。

▼小学校英語の「教科化・専科化」の反対理由

①原理的理由  
小学校から英語教育を始めても、その主たる狙いである、子どもたちの英語運用能力を育成することにほならず、逆に、いま以上に英語嫌いを生み出してしまふ可能性が高いということです。

日本で英語を学ぶのは外国語学習つまり、生活言語として英語が使われていない環境で、限られた時間と方法で接しながら、英語を学んでいくであり、英語の発音や文法をきちんと「学ぶ」必要があります。

そのなかでも、文法を学ぶには一定の知的発達が必要となり、その意味で、中学校入学時に英語の学習を開始するのが望ましいと言えます。

小学校では、まず母語という、心の基盤をきちんと築いておくことが必要です。

ほんとうの意味で英語が使える日本人というのは母文化である日本文化と母語である日本語

の基盤がきちんとできてきている人であり、それがなく、ただ、ペラペラと話せるというだけでは英語が単なる根無し草になってしまう。

その意味で、小学校教育というのは日本文化や日本語の基盤をきちんと整備すべき期間であって、中途半端に英語を導入することは根無し草状態の子どもを生み出してしまふ危険性があります。

ことばは心の働きを支える重要な仕組みですが、母語の場合には意図されることもなく、意識されることもなく、自然に身につけてしまうことから、第二言語や外国語の場合もそれらに触れていけば、自然に身につけてしまうものと錯覚してしまいがちです。

「小学校英語」という新たな試みのように思いますが、すでに私立小学校では、100年以上の歴史をもつことや半世紀を超す伝統をもつ私立小学校はミッション系を中心に沢山あり、近年、少子化で「受験生確保」のため、ほとんどが英語教育を導入しているといわれています。

しかし、小学校から英語を学んだ子供の方が英語学習で効果が上がっているという、客観的・実証的なデータはありません。

日本児童英語教育学会が行っ

た小学校で英語を学んだ中・高校生、849人を対象にした英語技能の熟達度についての調査では、発音・知識・運用力など両者の間に目立った差は出ていません。



同時に、見逃してならないのは、小学校英語の教科化を実現すると、学校英語教育全体を再組織化する必要があるということである。

公立小学校の数は約2万1千です。中学校の倍、高等学校の4倍です。もし、小学校に英語教育を導入するのであれば、これまで中学校の先生が担ってきた入門期の指導を小学校の先生が担当することになります。

②物理的理由

外国語の指導で最も知識と技術と経験が必要だとされているのが入門期の指導です。

そうした指導をきちんとできる先生を全国の小学校2万1千校に配置できるのでしょうか。小

中連携など、さまざまな方法を駆

使しても、その表現は非常に困難だと言わざるを得ません。環境の整備にも膨大な手間とお金がかかります。現在の経済状況でそんな余裕はないはず

万が一、それだけの余裕があるというのであれば、中学校と高等学校の英語教育の充実を図るために使うのが常道と考えます。

同時に、見逃してならないのは、小学校英語の教科化を実現すると、学校英語教育全体を再組織化する必要があるということである。

単に、従来の体制に小学校英語教育を継ぎ足すというわけにはいきません。

つまり、いま小学校英語を教科化・専科化し、充実した入門期指導を行うことができないと考えるのはあまりにも非現実的です。なぜなら、人や予算の問題もさることながら、その必然性や導入後の体制についての議論がほとんどなされていないからです。

▼会話重視の失敗

使える英語を測定する試験TOEFLで北朝鮮と並んで日本はアジアの最下位となりました。

日本人が英語が話せないのは、文法中心で会話を重視して

# 英語化で壊されるもの

こなかったことが原因だとし、コミュニケーション重視への転換をした結果、文法、読解、リスニングの日中韓比較では、すべてにおいて日本は最下位となりました。

大きく離れていて、しかも日常生活で必要としない環境にあつて、それで英語を使えるようになるわけがない。

大学生の勉強時間も、日本は中国や韓国に圧倒的な差をつけられています。

最近ではアジアを意識した言葉が競争意識もあらわに頻繁に出てくる。小学校英語教育もその流れだが、見習うべきは勉強時間。日本の若者が未来への夢も描けず、意欲もない、という現状が問題です。

これを年代別にみると、日本だけは年代の高いほど成績が良い。それは、文法・読解の昔のやり方で学んだ世代で、1989年学習指導要領改訂による「オーラルコミュニケーション」・実践的会話能力重視以後の世代は、アブハチとらずとなつて最下位という結果になったのです。

惜しめない愛情と豊かな母語によつて、しっかりと根を張り、小さな目を大切に育てられれば、自分の力で自分の道を探します。

惜しめない愛情と豊かな母語によつて、しっかりと根を張り、小さな目を大切に育てられれば、自分の力で自分の道を探します。

「ものづくり」を支える創造性 経済力や、そこからもたらされる経済的豊かさ、多くの日本人が日本の良さや強みとして挙げるものだ。

▼中・高6年間で英語が話せないのは当たり前

OECD(経済協力開発機構) 2004年調査では、高校生の学校以外での勉強時間は、日本は週6・5時間、韓国は12・7時間と倍。日本青年研究所の調査によると、日本の高校生の平日での家での勉強時間が1日あたり50分に対し、中国は147分で約3倍。

OECD(経済協力開発機構) 2004年調査では、高校生の学校以外での勉強時間は、日本は週6・5時間、韓国は12・7時間と倍。日本青年研究所の調査によると、日本の高校生の平日での家での勉強時間が1日あたり50分に対し、中国は147分で約3倍。

たえば、GDPの上位五カ国は、アメリカ、中国、日本、ドイツ、フランスです。

▼問題とは、勉強時間

OECD(経済協力開発機構) 2004年調査では、高校生の学校以外での勉強時間は、日本は週6・5時間、韓国は12・7時間と倍。日本青年研究所の調査によると、日本の高校生の平日での家での勉強時間が1日あたり50分に対し、中国は147分で約3倍。

OECD(経済協力開発機構) 2004年調査では、高校生の学校以外での勉強時間は、日本は週6・5時間、韓国は12・7時間と倍。日本青年研究所の調査によると、日本の高校生の平日での家での勉強時間が1日あたり50分に対し、中国は147分で約3倍。

たえば、GDPの上位五カ国は、アメリカ、中国、日本、ドイツ、フランスです。

▼「思いやりの道徳」と「日本らしさ」

言語は単なるツール(道具)ではなく、人々の自己意識、道徳意識にまで影響を及ぼします。

日本では「思いやり」、「気配り」、「譲り合い」の精神があり、他者の気持ちや思いを細やかに察し、他者の観点から自分自身を見つめ、他者に配慮する。自分と関係によって、言い方

他方、英語を公用語の一つに加え、日本よりも英語が堪能な人々が数多くいるフィリピンなどのアジア諸国、あるいはケニアなどのアフリカ諸国は、さほどの経済力を備えていません。

▼「思いやりの道徳」と「日本らしさ」

言語は単なるツール(道具)ではなく、人々の自己意識、道徳意識にまで影響を及ぼします。

日本では「思いやり」、「気配り」、「譲り合い」の精神があり、他者の気持ちや思いを細やかに察し、他者の観点から自分自身を見つめ、他者に配慮する。自分と関係によって、言い方

他方、英語を公用語の一つに加え、日本よりも英語が堪能な人々が数多くいるフィリピンなどのアジア諸国、あるいはケニアなどのアフリカ諸国は、さほどの経済力を備えていません。



▼「思いやりの道徳」と「日本らしさ」

言語は単なるツール(道具)ではなく、人々の自己意識、道徳意識にまで影響を及ぼします。

日本では「思いやり」、「気配り」、「譲り合い」の精神があり、他者の気持ちや思いを細やかに察し、他者の観点から自分自身を見つめ、他者に配慮する。自分と関係によって、言い方

他方、英語を公用語の一つに加え、日本よりも英語が堪能な人々が数多くいるフィリピンなどのアジア諸国、あるいはケニアなどのアフリカ諸国は、さほどの経済力を備えていません。

▼「思いやりの道徳」と「日本らしさ」

言語は単なるツール(道具)ではなく、人々の自己意識、道徳意識にまで影響を及ぼします。

日本では「思いやり」、「気配り」、「譲り合い」の精神があり、他者の気持ちや思いを細やかに察し、他者の観点から自分自身を見つめ、他者に配慮する。自分と関係によって、言い方

他方、英語を公用語の一つに加え、日本よりも英語が堪能な人々が数多くいるフィリピンなどのアジア諸国、あるいはケニアなどのアフリカ諸国は、さほどの経済力を備えていません。

は「自国の言葉をしっかりと守り、発展させてきた国」と言ったほうがよいでしょう。

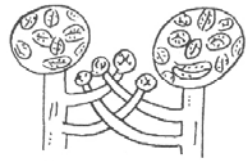
さまざまな産業のなかでも、日本の高いGDPを牽引してきたのは言うまでもなく製造業です。この「ものづくり」の根幹をなす創造性と母語のつながりをもっと意識すべきです。

意外に感じるかもしれませんが、日本人の創造性は、海外から高く評価されています。二〇一二年の春に、アメリカのソフト企業アドビ社が日・米・英・独・仏五カ国の一八歳以上の成人各一〇〇〇人ずつ計五〇〇〇人に対して行った調査では、最も創造性の高い都市は東京であり、国は日本であるという回答が得られています。

また、イギリスの「エコノミスト誌」の国際技術革新力調査でも、日本がここ数年トップを占めています。

韓国の新聞「韓国日報」が、自然科学分野で日本人のノーベル賞受賞者は続出する一方で、韓国人の受賞者がいない(韓国人の受賞者は二〇〇〇年の金大中氏のみで、部門も平和賞だった)のはなぜか、というテーマの論評を載せたことがありま

す。日本では、明治以来、西洋の



自然科学概念を日本語に訳してきました。そのおかげで、日本人にとって世界的水準で思考するということは世界で一番深く思考

するということであり、英語で思考することではなくなりました。

他方、韓国では「名門大学であればあるほど、理学部・工学部・医学部の物理・科学・生理学などの基礎分野に英語教材が使われる。内容理解だけでも不足な

時間と外国語の負担まで重なっては、韓国語で学ぶ場合に比べると半分も学べません。

教授たちは、基礎科学分野の名著がまともに翻訳されていないからだと言いますが、このように原書で教えているは翻訳する意味がありません。

韓国語なら一〇冊読めるであろう専攻書籍を、一冊把握することも手に負えないから、基本

の面で韓国の大学生たちが日本の大学生たちより遅れるのは当然です。ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英氏も、中国と韓国を訪問した際、なぜアジアで日本だけが次々と受賞者を輩出しているのかという彼らの問いにぶつかり、母国語で専門書を読むことができる日本の優位性をしみ

じみ感じたという。そして、英語偏重教育に疑問を投げかけ、「専門分野の力がおろそかになったら元も子もない」と懸念を呈しています。

▼「翻訳」の衰退が招く日本語の「現地語」化  
授業の英語化は、日本語の専門用語の発達を阻害し、日本語の「現地語」化をもたらします。

授業を英語化してしまえば、当然ながら、授業で用いるテキストや参考文献も英語の書籍を用いることとなり、外国語で書かれた専門書の邦訳の需要は減ります。

出版不況が続く現在、学術系の出版社の多くは経営的に苦境に陥っており、赤字リスクの少ない書籍しか刊行できないような状況です。

大学の授業の英語化が進めば、日本人の研究者が日本語で執筆し、出版することも同じ理由で難しくなり、結果的にもたらされるのは、日本語が、学術の言葉ではなくなってしまう事態です。

各学問分野の最先端の概念は、日本語に翻訳されず、日本

語はそうした専門的語彙を持たない言語となつて、次第に、知的な思考や議論が日本語で行えなくなり、高度な議論を行うための語彙を備えた「国語」である日本語が、「現地語」へと退化するのだ。

母語での思考こそ、創造性の源泉です。結果的に、大学の授業の英語化は、日本の大学の国際競争力の強化どころか、日本の学術文化の著しい衰退を招くことにつながります。これは文系、理系を問わずに言えることです。そして、学術の劣化と日本語の退化は、実業の世界での創造性にも悪影響を与えることとなります。

③—良質な中間層と小さい知的格差  
ものづくりににも大いに関係

するが、日本社会の良さとして、知的レベルが高い良質な中間層の存在があります。

「翻訳」と「土着化」を通じた国づくり、つまり日本語を守り、外来の知に学びつつ日本語を豊かにすることによって近代化を図ってきた果実なのです。

日本において知的格差が小さいことはOECD(経済協力開発機構)が実施した「国際成人力調査」(二〇一二年一〇月公表)でも明らかになっています。

世界二四の国と地域の調査結果を比較したところ、日本は「読解力」と「数的思考力」で他国を大きく上回り第一位でした。

ここで強調したいのは、日本が第一位だったこと以上に、普通の人々のレベルが実に高いという結果が出たことです。

上図にもあるように、「読解力」に関して、何と日本の「単純作業の従事者」のほうが、アメリカやドイツの「セミスキルド・ホワイトカラー」(事務職、サービスおよび販売従事者、つまり一般的なサラリーマン)よりも、点数が高いのです。

良質な中間層の存在は、「翻訳」と「土着化」を通じた近代日本の国づくりの恩恵を受けています。

母語による教育が行き渡って

いなかっただら、あるいは母語によつてさまざまな情報を得ることができ、高水準かつ均質な中間層は作り得なかつたといえます。

オール・イングリッシュ方式の授業の導入だけでなく、小学校からの英語の正式教科化や大学の授業の英語化、企業の英語公用語化などの近年の英語化推進の流れは、まず間違いなく子供たちに「日本語や日本文化は、英語や英語文化よりも劣っている」という強いイメージを与えることとなります。

そう遠くない将来、日本人の多くが、「あの大学はまだ日本語で授業している。三流大学だな」「社内で日本語が聞かれるようでは一流企業ではない」などと普通に感じるようになるのかもしれない。

しかしそうなるってしまったら、法的には独立国家の体裁を保つていたとしても、日本人のものの見方は植民地下に置かれた人々と似たようなものになってしまう。

戦後、英米が協力して英語を世界中に広め、支配的地位を維持するために一連の会議を開き、その後それぞれに言語戦略を進めてきたことなど、ほとん

現在、イギリスを中心として主にかつての植民地が構成するイギリス連邦という共同体があります。そこに属する国の国民の多くは英語を母語あるいは、第二言語、公用語として使っています。

英語には、外国人とやりとりをする道具という側面と、植民地支配の道具という側面の、二つの面があります。

■英米の英語戦略(植民地教育)と英米の利益

英語的価値観や思考方法こそ先進的でカッコイイと思ひ込み、日本語や日本の価値観、ひいてはそれを身につけている大多数の日本人を軽く見るようになるのではないだろうか。

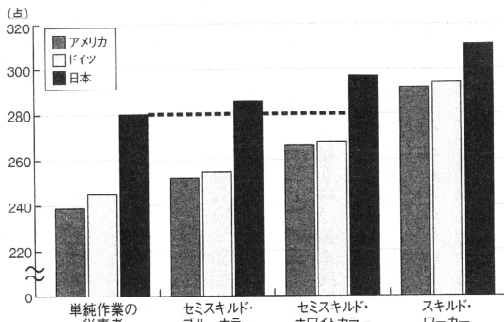
英語には、外国人とやりとりをする道具という側面と、植民地支配の道具という側面の、二つの面があります。

英語をここまで世界に広めたものは、第一にイギリスによる植民地支配であり、第二には、元々はその植民地の一つであったアメリカの発展です。

現在、イギリスを中心として主にかつての植民地が構成するイギリス連邦という共同体があります。そこに属する国の国民の多くは英語を母語あるいは、第二言語、公用語として使っています。

戦後、英米が協力して英語を世界中に広め、支配的地位を維持するために一連の会議を開き、その後それぞれに言語戦略を進めてきたことなど、ほとん

職業別 読解力の習熟度分布(20~65歳)



出典：文部科学省「OECD 国際成人力調査 調査結果の概要」

# 英米の英語戦略



どの人が知りません。

「ブリテイッシュ・カウンシル」は、イギリス文化の発信を戦略的に行っている公共機関ですが、発行した「英語の未来」という本では次のように記されているようです。

「すなわち、世界の人々が、母語で教育を受け、生活する権利、つまり「言語権」の考え方に目覚めたり、言語的多様性の保護に意識的になったりすると、イギリスとしては警戒しなければなりません。

もし、各国の人々が「子供が母語で教育を受けることは人権の一つである」と主張し、「言語権」が人権問題として語られるようになれば、どうなるか。

あるいは、実際の因果関係はどうあれ、「英語の世界的隆盛のせいで少数言語が数多く亡び、言語的多様性が損なわれた」という批判が高まれば、どうなるか。

こうした事態が生じ、英語がやり玉に挙げられることは「悪夢」であり、そうならないようにイギリス英語の「ブランド・イメージ」を慎重に守っていく。

「英語を普及することは、イギリスにとって広大な領土を併合するよりもはるかに永続的で

実り多い利益になる。」  
「イギリスの真の財産は、北海道でなく英語である。」

世界中の人々が英語を国際語と思えば、彼らは莫大な利益が得られます。

そのためにアメリカ・イギリスは、英語を普及させ、英語を国際語にする努力をしてきたのです。

● 金銭的なメリット

① 英語の本はよく売れる。世界の出版物の売り上げの四分の一超を、英語の本が占めている。特にイギリスは出版業界の売り上げの半分を外国から得ている。

英語は世界中の人々が学んでいるため、英語国は世界中に英語教師を送り出すことができ。ただし、英語ができるなら誰でも世界中で英語教師になれるというわけではない。白人が圧倒的に有利だ。

イギリスの英語教育産業は、教材を輸出したり留学生を受け入れたりすることによって、年間113億ポンド(約2兆円)ほどの利益を上げています。

② アメリカやイギリスは世界中にインターナショナルスクー

ルを送り出すことでも利益を得られます。  
二〇〇九年までの八年間で、世界中の英語のインターナショナルスクールの数は3倍以上に増えた。これらのインターナショナルスクールの、二〇〇九年には180億ドル(約2兆円)の利益を上げており、二〇二〇年にはさらに倍増すると見込まれています。



③ アメリカは映画や音楽やテレビ番組やDVDソフトが年間八〇億ドル(約1兆円)ほど輸出超過で、音楽の輸出だけで年間一四〇億ドル(約1兆7〇〇〇億円)稼いでいます。

④ イギリスは、本と映画とテレビ番組の輸出で年間五〇億ポンド(約9〇〇〇億円)の利益を上げています。

⑤ 学術的には大きな疑念がもたれているオール・イングリッシュ方式を受け入れることは、日本の教育関連市場を開放し、アメリカやイギリスなど英語国の英語教育関連企業の日本市場への投資拡大を促すよい口実になります。

⑥ TOEFLという利権  
日本の大学入試の受験者、および国家公務員総合職試験の受験者は、毎年約六五万人に上

る。TOEFLの試験は、数回受験して一番よいスコアを提出すればよいという形式をとっているため、受験生は平均して二〜三回は試験を受けることとなります。  
TOEFLの一回の受験料は、約二万七六〇〇円(二三〇ドル)。これを人数と回数に掛け算するだけでも、数百億円の巨額の受験料が、毎年、日本からアメリカに流れることがわかります。

TOEFL受験関連の企業進出や著作権の問題もあります。受験産業が発達した日本であるから、大学入試や国家公務員試験にTOEFLが義務付けられるとなれば、内外の多くの出版社や予備校が高校生向けのTOEFL対策の参考書や問題集を作成する。その作成のために、過去のTOEFLの問題を使ったりすれば当然、著作権料も発生する。これも莫大な額になります。

また、日本の中学や高校、大学には、TOEFL受験のノウハウを蓄積した教師は少ない。私立学校を中心に、TOEFL受験のノウハウを備えた教育産業と学校との連携が進み、

# 英語・白人支配の序列構造

多くのビジネスの機会が生まれます。

加えて、インターネット産業にもビジネスの機会が期待できる。TOEFLは、インターネット経由でコンピューター受験する試験である。それゆえ、TOEFLが、日本の多くの受験生に義務付けられるようになれば、対策サイトや対策ソフトの開発など、内外のインターネット関連企業にとっても、大きな収入源となる可能性があります。

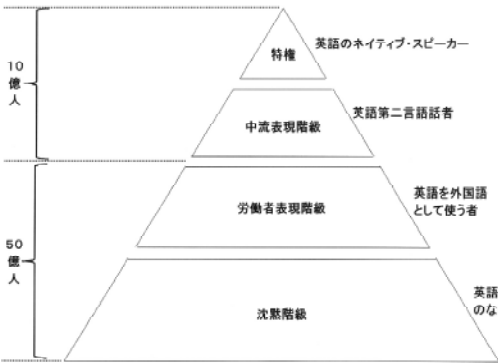
▼ 英語支配の序列構造  
筑波大学で言語政策などを講じていた津田幸男氏は、英語化の進展は、世界を不当な「英語支配の序列構造」のもとに落とし込んでしまうと警鐘を鳴らしています。

その図によれば、一番の頂点に来るのは、アメリカやイギリス、オーストラリアなど英語を母語とする国々の国民、この頂点の層が「特権表現階級」。

内容の優劣はともかく、ことコミュニケーションに関する限り、英語のネイティブ話者は、常に強者となり、特権階級でいることができる。

また、それぞれの言

英語支配の序列構造



⑦ また、アメリカは、非英語国のように外国語教育に費用を

かけておくことで、年間一六〇億ドル(約一兆九〇〇〇万円)得していると推計されています。

二番目の層は、「中流表現階級」。

この階級には、英語を第二公用語として使う世界中の人々が当てはまる。

旧イギリス植民地諸国(インド、マレーシア、ケニアなど)の人々、アメリカの占領下にあった諸国(フィリピン、プエルトリコなど)の人々です。

英語母語話者からなる「特権表現階級」と、英語を第二公用語として用いる「中流表現階級」とを合わせると一〇億人ほどになります。この一〇億人が世界の残りの五〇億人を言語的に支配します。

第三の層は、「英語学習」という労働を生産強いられる「労働者表現階級」です。

国で言えば、日本やドイツ、

フランス、中国、韓国、タイなどの国民がこれに当たります。英語を学校で学ぶ人々も言ってもよいでしょう。

しかし、この階級は、その英語力の低さゆえに、コミュニケーションでは常に『特権表現階級』『中流表現階級』に抑圧される運命にあります。

外交、ビジネス、学術などの各分野のコミュニケーションにおいて、上位の階級の者に主導権を振られ、劣位に甘んじざるを得ません。それについて、ニュースや学術論文、小説などを英語で発表し、母語の文化ではなく、英語文化を豊かにすることを強いられます。つまり搾取され続けるのです。

この序列構造の最下層は、「沈黙階級」である。英語と接触することがほとんどない人々のことです。

国で言えば、反米的なイスラム諸国や北朝鮮などがこれに当たり、あえて英語を使わず、むしろ意図的に英語の情報を排除しようとする国々の人々です。

こうした人々の声は、国際的に伝わりにくい。沈黙階級と称されているのです。

このように、世界的に英語化が推し進められた社会では、ただ「英語が自由に使えるか否か」という基準

だけで、厳然たる階層化が発生します。

世界の政治経済や学術、文化への貢献度などといった実の指標は度外視され、国民が英語に習熟してきたかどうかという点だけで地位が決まってしまう極めて不公正な世界秩序が、ここに立ち現れます。

英語化が進む世界のなかでは、日本は、「英語支配の序列構造」のなかで非常に不利な立場に甘んじなければなりません。

現在の日本は、アメリカ主導のグローバル化や英語化の流れを前提に、そのなかで日本の位置をできる限り高め、グローバル化した世界でビジネスや国際政治、あるいは学術分野における競争に勝ち抜き、日本が世界で主導権を発揮していることとしていますが、これは明らかに無理です。

日本人が母語ではない英語で、英語を母語とするアメリカなどの英語圏の人々と各分野で本気で勝負したとしても、勝てる者はほとんどいません。

言うまでもなく、外国語で活動する場合、母語で活動する場合に比べ、労力も時間も大変にかかるものだからです。

また、企業などの組織運営の過程や、思考力の基礎になる教育・

研究の過程を外国語で行うようになれば、当然ながら、大部分の組織や人々は、自分たちの潜在能力を十分に発達させ、発揮できるまでには至らない。組織運営や思考の基礎は母語であり、その基礎が奪われてしまえば、骨抜きにされてしまいがちです。

▼英語教育改革の狙い

英語偏重の教育改革は、かつてなく危険な状況となつています。

子供の将来や日本の学術や文化の発展を考慮することもありません。

多くの政治学者が指摘していますが、新自由主義の考え方は、多様な意見に耳を傾け審議を進める民主的プロセスを軽視する傾向が顕著です。

合理的な制度や政策とは、効率性の観点から経済学的小説の意見を開き、審議を進める民主的プロセスなど必要ない、と断定してしまうからです。

# 日本語が最大の非関税障壁



材」とは、一つは、「世界市場を奪取するための人材づくり、もう一つの狙いは、「海外投資家に好まれる環境づくり」です。

そのためにまず、日本を英語でビジネスがしやすい国にする、ということが考えられています。「日本再興戦略」改訂2014」のなかには、「英語によるワンストップでの行政対応」を実現するとあり、グローバル企業が英語でさまざまな行政手続きを行えるようにしようとしています。

これに呼応する形で国は、二〇一五年度から国家公務員総合職試験でのTOEFLなど外部の英語試験の活用を開始しました。英語で行政手続きができ、外資が進出しやすい日本市場創設のためだと考えられるとわかりやすいものです。

ほかにも、海外投資家を意識したサービスの提案を国は得々として行っています。

たとえば国家戦略特区構想のなかには、英語で診療が受けられる医療拠点づくりや、英語で教育が受けられる公立学校の開設、国際バカロレア認定校の設置などを盛り込んでいます。

若者たちに英語を学ばせる第一の目的は、学若者自身の利益ではなく、資本を持ち込んでくれる海外投資家がビジネスを展開しやすい環境を作ることなのです。

■TPPの本当の恐ろしさ

TPP(環太平洋経済連携協定)交渉をめぐる関税の問題ばかりが大きく取り上げられますが、実はTPPには英語を日本の公用語にするという意外な側面があります。

TPPは、加盟国が自国の企業と外国の企業に同等の条件を保証することを求める条約です。したがって、公共事業の入札の公示を日本語だけで出している外国企業に不利になるという理由で、英語でも公示しないといけないかもしれない。そうならたら英語は日本の事実上の公用語ということになります。

また、TPPの中にISD条項というものがあります。そこには、外国企業が、ある国の規制のために、その国での企業活動をその国の企業と同じ条件で行えないと判断する場合、その国を訴えて規制をなくさせることができると定められています。

TPPが妥結されれば、外国企業が、英語が公用語でないせいで企業活動が行えないという日本を訴えることで、英語が日本の公用語になる可能性もあります。



二〇一四年には学校教育法の改正があり、教授会の権限は大幅に削られ、実質上、教員人事などの大学運営には口出しできなくなりました。

新自由主義の思想はそもそも、各々の国の歴史や文化、発展段階などを考慮に入れず、世界を単一のグローバル市場にまとめ、そのなかで一部の投資家や経営者が自分の利益を最大化することを、正当な行為として扱います。

そこでは、言語や文化の相違は、資本や人材の移動の「障壁」としか見られない。

そして、現状で最も有力な言語学である英語を用い、英語国の商慣習や文化に他の地域も合わせるべきだとする強い力を生んでしまふ。

日本でも、一九九〇年代後半以降、新自由主義が半ば公式の経済思想となりました。

その結果として、ビジネスの論理から日本社会、および日本の学校教育の英語化が進められるようになってきました。

ビジネスの論理が英語教育改革に求めている「グローバル人

く、過去の歴史的経緯を知ることでもなく、新自由主義的なビジネスの論理一色に染まり、財界の意を受けた政府の主導でやみくもに改革が進められてい

二〇二〇年ほどの間に、市場経済を絶対視する「新自由主義」の考え方が広まり、公的部門の「効率化」が進みました。

「効率化」と言えば聞かぬはよいが、その実、現場からの多様な声を聞く、民主的意思決定のプロセスの切り捨てです。

多くの政治学者が指摘していますが、新自由主義の考え方は、多様な意見に耳を傾け審議を進める民主的プロセスを軽視する傾向が顕著です。

合理的な制度や政策とは、効率性の観点から経済学的小説の意見を開き、審議を進める民主的プロセスなど必要ない、と断定してしまうからです。

大学で言えば、二〇〇四年に国立大学が法人化されました。大学運営の予算は、競争的資金の割合が大幅に増え、競争的資金以外の予算は年々減額されています。

# 孫への手紙 (5)

## テレビに近づかないで

1歳4カ月になりました。満一歳になっても、歩かなかつたので、マイペースでゆっくりとして、なかなか良いと思いましたが、なかなか良いと思いません。

今では、ヨチヨチ歩き回り、名前を呼ぶと、「はい」と手をあげ、お返事できるようにになりました。

誰に似たのか、意味不明の言葉をよくしゃべり、よく笑います。

12月1日の爺と婆の30周年結婚記念日には一緒に食事しましたが、ご飯も自分でスプーンを持ってしっかり食べます。炊き立てご飯で、おいしかったのか、いくらでも食べるので、ちよつと心配しました。

驚いたのは、婆の携帯電話を持って、指を横にスライドさせて、電話を耳に当てて話すマネをしたことです。

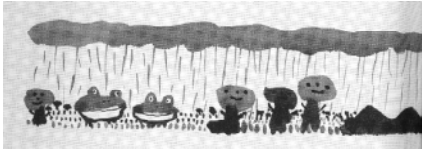
身の回りの人がいつもそういう行動をしているということなのでしょう。

現代人の異常な行動を風刺しているようで、何だか、爺

には、凶器のように見えませんでした。

特に気になることは、携帯電話を耳に当てることもそうですが、大きなテレビに吸い取られるように画面の前に立ち、電磁波を体全体に浴びている場面を目にする時です。

電磁波による人体への影響については、定かではありませんが、小さい子供ほど影響は大きいので、できるだけ、電気器具に近づかないようにしてください。



でも、昔の人から見て、人間が上等になったのかといえは、むしろ、だんだんと人間味が薄くなってきて、品下がりしてきているように思います。

▼読書尚友とは、「尚」は過去にさかのぼるといふ意味で、書物を読んで、昔の賢人を友人とするということ。

以下に紹介する文章は、数学者の岡潔という人が、爺と同じように初孫を持ったとき(1963年)に書かれたものです。

人間としての深いものの考え方が伝わってきます。

爺と同じ年のころに書かれたものですが、こんな文章は、残念ながら爺が逆立ちしても書けません。

人間としての深み、それこそ「情緒」が格段に違いすぎています。

爺には無理ですが、風吹なら心がけ次第でこういう人になれる

ます。

「読書尚友」、しっかりと本を読んで、こんな人になれるよう頑張ってください。

▼人の中心は情緒である。情緒には民族の違いによっていろいろな色調のものがある。たとえば春の野にさまざまな色どりの草花があるようなものである。

私は数学なんかをして人類にどういう利益があるのだと問う人に対しては、スマレはただスマレのように咲けばよいのであって、そのことが春の野にどのような影響があるうとなかろうと、スマレのあざかり知らないうことだと答えて来た。

その私が急に少しお話ししようと思いついたのは、近ごろのこのくにのありさまがひどく心配になって、とうてい話しかけずにはいられなくなったからである。

▼これは日本だけのことでなく、西洋もそうだが、学問にして教育にしろ「人」を抜きにして考えているような気がする。

「人に対する知識の不足が幼児の育て方や義務教育の面ではなかるうか。

人間性をとおさえて動物性を伸ばした結果にほかならないという気がする。

たとえば、牛や馬なら生まれ落ちてすぐ歩けるが、人の子は生まれて一年ぐらいは歩けない。そしてその一年の間にこそ大切なことを準備している。

とすれば、成熟が三年も早く

なったのは、人の人たるゆえんのところを育てるのをおろそかにしたからではあるまいか。

ではその人たるゆえんはどこにあるのか。私は一にこれは人間の思いやりの感情にあると思う。人がけものから人間になったというのは、とりもなおさず人の感情がわかるようになったというのだが、この、人の感情がわかるというのが実にむずかしい。

しかし、そのデリケートな感情がわからないうちは道義の根本は教えられない。

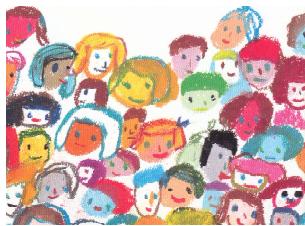
私も最近、最初の孫を持つて無慈悲を憎む心や思いやりの気持を持たせようと思ひ、感情がいつわかるようになるかと手ぐすねひいて待っているが、なかなかわからない。といって、いわゆるしつけは一種の条件反射で、害あつて益のないものだからやりたくないが、あまり気ままの雑草が生い茂っても困るのでしつけねばならないのだろうか悩んでいる。

やはり心を育てる時期はあるに違いない。

それは植物でも茎、枝、葉が一緒に平均して育つのではないのと同じことである。ある時期は茎が、ある時期は葉が主に伸びるといことぐらひは、戦時中みんなカボチャを作ったから知っているはずだが、人間というカボチャも同じだとは気がつかず、時間を細かく切つてのぞいて、いいとか悪いとか、この子は能力があるとかないとかいつている。

どうもいまの教育は思いやりの心を育てるのを抜いているのではあるまいか。

そう思つてみると、最近の青少年の犯罪の特徴がいかに無慈悲なことであると気づく。



観察しても、最も難渋をきわめるのがこのところ、なかなか感情がわかるまでにならない。

人類が人の感情がわかるようになるまでには何千年どころではなく、無限に近い年月を要したに違いないと思われるくらいにわかりにくい。

数え年で三つの終りごろから感情ということがややわかるが、それはもっぱら自分の感情で、他人の感情ががすかにわかりかけるのは数え年で五つぐらゐのころからようだ。その間二年ばかり足踏みしていることになる。

どうもいまの教育は思いやりの心を育てるのを抜いているのではあるまいか。

そう思つてみると、最近の青少年の犯罪の特徴がいかに無慈悲なことであると気づく。

どうもいまの教育は思いやりの心を育てるのを抜いているのではあるまいか。

そう思つてみると、最近の青少年の犯罪の特徴がいかに無慈悲なことであると気づく。



これはやはり動物性の芽を早く伸ばしたせいだと思う。学問にしても、そんな頭は決して学問には向かない。

乾いた苔が水を吸うように学問を受け入れるのがよい頭といえる。

ところが、動物的発育のためにそれができない頭は、妙に凶太く、てんで学問なんか受け付けない。中学や高校の先生に聞いても、近ごろの子はそんなふうになんか教えないといっている。

いま、たくましさはわかって、人の心のかなしみがわかる青年がどれだけあるだろうか。

人の心を知らなければ、物事をやる場合、緻密さがなく粗雑になる。粗雑というのは対象をちつと見ないで観念的のものを用いているだけということ、つまり対象への細かい心くばりがないということだから、緻密さが欠けるのはいっさい

のものが欠けることにほかならない。」

▼頭で学問をするものだという一般の観念に対して、私は本当は情緒が中心になっているといいたい。

情緒の中心が発育を支配するのではないかと、とりわけ情緒を養う教育は何より大事に考えなければならぬのではないかと、思われる。

いまの教育に対する不安を述べると、20歳前後の若い人に、衝動を抑止する働きが欠けていることである。抑止の働きは大脳前頭葉の働きで、大脳前頭葉を取り去ってもなお生命は保てるが、衝動的な生活しか営めない。試験のときでも、意味も十分わかっていないのにすぐ鉛筆をとって書き始めるなどは衝動的な動作だ。

だから衝動の強く働いている現状は、一般に大脳前頭葉の発育不良といえる。

（岡潔著、しんじつ 春宵十話 1963年）

エアコン	20mG
ホットカーペット	30mG
カラーテレビ	20mG
ステレオ	20mG
アイロン	3mG
ヘアドライヤー	70mG
電気こたつ	100mG
掃除機	200mG
ビデオデッキ	6mG
洗濯機	30mG
電気シェーバー	100mG
電子レンジ	200mG
炊飯器	40mG
冷蔵庫	20mG
コーヒーマーカー	1mG
ファックス	2mG

### 電磁波による人体への影響

テレビから出る電磁波（境界は、およそ20 mG（ミリガウス））と言われています。エアコンやステレオ、冷蔵庫と同じ電磁波（境界）です。しかし、20 mG（ミリガウス）が

多いのか、使用されている家庭用家電製品からは、微量の電磁波（境界）しか発さないもので問題はないと言われています。



しかし、問題はないと言われている一方、発ガンリスクが高まるという研究データも出ています。

とくに懸念されているのが、電磁波（境界）が強い電子レンジや電気ストーブ、乾燥機・洗濯機、電磁調理器といった製品です。

その中にテレビは含まれていますが、20 mG（ミリガウス）も注意しなければ

ならない値とみなされています。液晶テレビ・プラズマテレビにも電磁波（境界）が発生していることには変わりありません。

電波などの直接影響を感じない低周波の電磁波による人体への影響が注目されています。日本ではまだ取り組みが遅れていますが、大きな課題とされています。

欧米ではいち早く、人体への影響を考慮して、電磁波防護基準の法制化がなされ、電磁波測定方法の規格化が進められています。

ただ、未だに研究途中であり、確定した評価までは至っておりません。それでも無視できない一貫性が報告されており、一般的には人体に有害であると認められているのが現状です。

疫学的研究では、87年の米国サピッツ博士の調査において、2 mG（ミリガウス）以上の磁場で、小児白血病が1.93倍、小児筋肉腫瘍が2.6倍という結果が



出ました。スウェーデンでは、1992年にカロリンスカ研究所を中心とした大規模な疫学調

査の結果、北欧3国集計で2 mG以上の磁場で小児白血病が2.1倍、小児脳腫瘍1.5倍」との調査結果を発表。

低レベルでも電磁波にさらされることにより、小児白血病やがんの発生率が増加する恐れが指摘され世界に大きな反響を呼びました。

▼身近にある電磁波を生ずるもの

#### ①外部からの電磁波

住環境においては、高圧送電線や変電所からの電磁波の影響は大きく、高圧送電線の近くにお住まいの方は、注意が必要です。

距離が遠くなるほど電磁波も弱くなりますので、近ければ近いほど危険といえるでしょう。そばに大きな送電線があれば、常に電磁波を受け続けている可能性が高く、人体への影響が強いと考えられます。

#### ②家庭内での電磁波

家庭内は電磁波に囲まれていると言ってもよいでしょう。

テレビのブラウン管やパソコン本体画面からも電磁波が発

生しています。場合によっては、高圧送電線より強い電磁波

が家電製品から出ていることもあります。

#### ○特に電磁波が強い製品

- ・電磁調理器（IHクッキングヒーター）
- ・電子レンジ
- ・ミキサー
- ・電気ストーブ
- ・オーデオ類
- ・乾燥機、洗濯機
- ・ホットプレート
- ・エアコン

以下の製品は、電磁波が強いというよりも長時間の使用で電磁波を浴び続けるため、家庭内では最も危険な製品と認識するべきです。

- ・電気毛布
- ・電気敷き毛布
- ・電気カーペット
- ・電気こたつ
- ・パソコン

○電磁波は特に、頭部への影響に注意が必要です。

源使用のタイプ）

○見えない場所からの電磁波

壁や天井、床などに埋め込まれている見えない配線からも電磁波が発生されているので注意が必要です。

2階などでは、寝ている場所の下側に配線が集中しているケースもあります。



配線は見えないので、電磁波測定器などで測定する以外にありません。

眠る場所に電磁波があると、毎日8時間程度、継続して浴びることになり、睡眠中は起きてるときよりも抵抗力が少ないことを考えると軽視できません。

▼多少なりとも気にすることは大事

飛行機に乗ると携帯電話の使用をお控えくださいとアナウンスがあります。

食品の安全性についても同様ですが、多少なりとも気をつけている人と全く気にしない人とは、健康被害では雲泥の差が生じます。特に乳幼児は気をつけたいものです。

偶成

朱熹

少年易老学難成 少年老い易く 学成り難し  
一寸光陰不可輕 一寸の光陰 軽んず可からず  
未覚池塘春草夢 未だ覚めず 池塘春草の夢  
階前梧葉已秋声 階前の梧葉 已に秋声

偶成とは、たまたまできた詩という意味。

少年、若者はたちまち年老いて、学問はなかなかものにならない。わずかな時間でもおろそかにしてならぬぞ。

池のつつみの春草がまだ夢からさめないうちに、階段の前の青桐の葉には、もう秋の声がしのび寄る。

夢ばかり追っている若者が、「池塘春草の夢」にあたる。「桐一葉落ちて、天下の秋を知る」といわれるほどに、秋の気配を感じただけで、青桐の葉は落ちてゆく。現実とは、かくもきびしい。

朱熹（朱子）は宋の哲学者。孔子、孟子以来の儒教に、禅や老荘の思想をとり入れて、新しい儒教、朱子学を集大成した。わが国でも江戸幕府がこれを正統な学問として重んじた。宋学ともいう。

「少年老い易く 学成り難し ……」と、暗誦し、肝に銘じて、中国で掛け軸を買って、毎日見えるように壁に掛けのはいつのことだったか。

しかし、「一寸の光陰 軽んず可からず」を意識するあまり、将棋の持ち時間のカウンタダウンのように、「早く早く」「もつともつ」と、あれもこれもしなければならぬとせかさね続けられてきたような感じがする。

寸暇を惜しんで、ポケットから文庫本を取り出す生活習慣となったが、読まねばならない本が次から次へと追いかけてきて、逆に消化するのに忙しくなると、イライラしてストレスをつのらせてきた。

今年ももう晦日月を迎え、年が明ければ、年男、還暦を迎える。

あれもこれも、やらねばならないことだらけだが、限りある命の暇を作り出すには、見逃し三振もよし。「次にまたシャバにご縁があったなら読ませてもらいます」と、心の中で手を振り、身じまいし、あきらめることこそ重要だと思えてきた。

# 新緑の気ままにトク



▼フランスの比較的新しい言葉に、「日本がぶれる、日本びいきになる、日本人っぽくなる」ことを柔道のシンボルである畳から「タタミゼ」と言うようだ。日本語を学ぶと「人との接し方が柔らかくなる」「一方的な自己主張を控えるようになった」「相手の手を思いやり、人の話を聞くようになった」などの性格の変容をもたらすという。

しかし、本家本元の日本では、今の若い者が何を話しているのかよくわからない。モンゴルの相撲取りの方がよほど美しい日本語を話すなどといわれる。

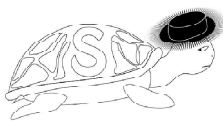
日本語は日本人であり、日本語が壊れれば、日本人も壊れる。小津安二郎監督「東京物語」伝説の女優、原節子さんが亡くなった。

「多くの日本女性の鑑になるような動きや言葉遣いとかね、ひかえめなちよつと恥じらいのあるような、しとやかに毅然とした凛とした大和撫子」と評したのは、美輪明宏だが、そういうお手本をなくした時代は悲しい。

▼「姉さん、ビール頂戴」と呼んだら、ウェイトレスがあたりを見渡して自分であることを確認して振り返り、ニコニコしながら近づいてくるので、不思議に思ってしまったのか？と聞いたら、「ハイ、家では、ばあちゃんとか言われたいので」と素直な答えが返ってきて驚いた。

そういえば、「孫への手紙」で、女房のことを「婆」と書いて、「私のことと婆というのはやめて」というのだ。私が「爺」なら、あなたは「婆」のはずだが、しからは何とお呼びすればよいのか、「おばば」「婆様」「ばんば」「クソ○○」「グランドマミー」、まさか「お姉さん」…

そういえば、今年、永遠の独身貴族と思われた福山雅治が電撃結婚して、あまりのショックにふてくされて会社を休んだり、早退してヤケ酒を飲んだ女の人が相次いだという福山ショックもあった。



そういえば、今年、遠の独身貴族と思われた福山雅治が電撃結婚して、あまりのショックにふてくされて会社を休んだり、早退してヤケ酒を飲んだ女の人が相次いだという福山ショックもあった。

おばさんたちが、一曲目から総立ちで、化粧か汗か分からない匂いと熱気で、それはもう居場所がなかった。まさか、私に「郷ひろみのよ

うになれ」と、希望するのは勝手だが… 途中で、「車が混雑するから」と出てきて、前の喫茶店で、「連れられて大変だった」というと、「何言ってるの、わずか7500円で、奥さんがストレス解消して、更年期障害が直るなら安いもんじやないの。私なんか何回も行っているわ」といわれて、大いに納得した。 ヒロミ・ゴーが来るたび、女房は、通っているみたいだが、それで機嫌がよくなるなら、「安いもんだ」。

いよいよシルバー川柳  
来世も  
一緒にならうと  
犬に言い  
確かめる  
むかし愛情  
いま寝息  
誕生日  
ローンク吹いて  
立ちくらみ  
「アーンして」  
むかしラブラブ  
いま介護  
オーイお茶  
ハイと缶が  
転がされ

▼秋深し隣は何をする人ぞ  
最近柿の実がたわわに実っても、誰も見向きもしない。  
「柿食えば、鐘が鳴るなり法隆寺」と柿を食べれば、防災無線の音楽がなった。  
「風の情け」と書いて風情。ギターの教本のような唐突な音楽でなく、せめて、寺の「鐘の音」というわけにはいかないのだろうか。  
どなたさまも良いお年を